

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	関係法規	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	法の成り立ちを理解する。柔道整復師法・省令・細則について理解する 柔道整復師の免許・業務・広告制限について理解する。 関連する医療従事者の法規について理解する。			評価方法			
授業概要	プリント冊子を利用し柔道整復師の業務に関係する法律を中心に学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	関係法規	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	講義の流れの概要説明 法の意義・体系 柔道整復師および柔道整復に関する法規 p5 柔道整復師と患者の権利 p5						
第2週	医療過誤とリスクマネジメント 法の名称 プリント～p9・10						
第3週	柔道整復師法とその関連内容 総則 p11 免許 p12						
第4週	免許の申請・名簿						
第5週	免許の取り消し 免許証の書き換え・返納・提出						
第6週	柔道整復師国家試験						
第7週	業務の禁止(法第15条)名称独占と業務独占 業務範囲						
第8週	秘密を守る義務(守秘義務)都道府県知事の指示						
第9週	施術所の届け出 施術所の構造設備等 施術所に対する監督						
第10週	広告 広告の制限						
第11週	罪刑法定主義 【罪刑法定主義】【刑罰不遯及主義】【刑罰の種類】 指定登録機関 指定試験機関						
第12週	医師法・歯科医師法・保健師助産師看護師法						
第13週	診療放射線技師法・臨床検査技師法・理学作業療法士法・視能訓練士法・						
第14週	言語聴覚士法 臨床工学士法・義肢装具士法・救急救命士法・歯科衛生士法 歯科技工士法 薬剤師法						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	プリントを中心に復習する						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	関係法規	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	医療法(概念・病院等施設)について理解する。医療の安全確保について理解する。 健康保険法・国民健康保険法・高齢者の医療に関する法律などを理解し柔道整復師の業務に関する関わりについて理解する。			評価方法			
授業概要	プリント冊子及び問題集を中心に柔道整復師の業務に関係する法律を中心に学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	関係法規	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	医療法（1）総則 医療提供の理念 インフォームドコンセント						
第2週	病院・診療所の定義						
第3週	医療に関する選択の支援等 情報の提供 広告						
第4週	医療の安全の確保 国の責務 医療安全支援センター 病院等の開設 病床の別 管理						
第5週	助産所の嘱託医師 清潔保持等 病院の法定人員及び施設の基準等 地域医療支援病院の法定施設等 第3節 監督 医療提供体制の確保 医療計画						
第6週	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法 知的障害者福祉法、老人福祉法、障害者自立支援法						
第7週	健康保険法・国民健康保険法・、旧老人保健法、介護保険法						
第8週	個人情報保護に関する法律						
第9週	柔道整復師法 復習						
第10週	柔道整復師施行規則、省令						
第11週	日本国憲法						
第12週	復習プリント(柔道整復師法)						
第13週	復習プリント(関係法規)						
第14週	復習プリント(総合)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	プリントを中心に復習する。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	職業倫理	授業時期	前期	授業時数	15
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	近年話題となっている柔道整復師の犯罪行為を防止することを含め正しい医療人としての倫理観を修得する。			評価方法			
授業概要	教科書とまとめプリントによる授業 ディスカッション形式の授業			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	【医療従事者の職業倫理】職業倫理とは 医療における倫理感の経緯						
第2週	【柔道整復師に必要な倫理観と対応】患者への説明 守秘義務						
第3週	【柔道整復師の社会的責任と対応】患者への対応Ⅰ・Ⅱ						
第4週	【柔道整復師の社会的責任と対応】患者への対応Ⅲ・Ⅳ						
第5週	グループディスカッション事例						
第6週	【医療における情報と責任】個人情報保護 SNS等での情報発信での注意点						
第7週	職業倫理資料・参考使用による学習・						
第8週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	教科書の参考資料に繰り返し十分目を通す						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	社会保障制度	授業時期	前期	授業時数	15
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	我が国の社会保障制度（年金・健康保険等）について理解する。 療養費申請用紙に記入ができる。 日々の療養費の請求における施術録の記載ができる。			評価方法			
授業概要	教科書とまとめプリントによる授業 社会保障制度の概要と療養費申請について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	【社会保障とは】社会保障の3つの機能 あるべき社会と今後の社会保障 【社会保障制度とは】公的年金の意義 公的年金の仕組み 介護保険の意義と仕組み 社会福祉 公的扶助 公衆衛生の意義と仕組み						
第2週	【医療保険制度とは】医療保険の目的と意義 保険診療の概要 医療保険財政の現状と課題						
第3週	【医療保険制度とは】その2 診療報酬制度 【療養費制度の概要】療養費とは 柔道整復療養費						
第4週	【療養費制度の概要】その2 柔道整復療養費の推移 療養費の算定						
第5週	療養費請求のケーススタディ1.						
第6週	療養費請求のケーススタディ2						
第7週	療養費請求のケーススタディ3						
第8週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	療養費請求については自分で例題を作りこなしてみる。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	柔道整復学Ⅶ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	総論で出てくる傷病を各論で学習した具体的疾患を例にあげて説明できる。			評価方法			
授業概要	冊子と復習プリントにより1.2年時に学習した内容を確認し各論と結びつけた学習。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	骨の形態と構造 骨損傷の概説 骨折の分類 p21～31						
第2週	骨折の症状 骨折の合併症(併発症・続発症・後遺症) p31～39						
第3週	小児骨折・高齢者の骨折の特徴 癒合日数 治癒経過 治癒に影響を与える因子 p40～47						
第4週	関節の構造と機能 関節損傷概説 関節損傷の分類 関節構成組織損傷 p47～59						
第5週	脱臼の定義 分類 症状 合併症 p59～69						
第6週	筋・腱の損傷 分類・症状 p69～79						
第7週	神経の損傷p79～85						
第8週	【診察法】注意点 手順 時期による分類 治療計画 施術録p79～90						
第9週	骨折の整復法 脱臼の整復法 軟部組織損傷の処置 p91～98						
第10週	固定法 後療法 手技療法 p98～108						
第11週	運動療法 物理療法(分類・電気治療・温熱療法) p108～121						
第12週	物理療法(赤外線・マイクロ派・超音波・光線・寒冷・牽引)p122～135						
第13週	指導管理 外傷予防 p135～149						
第14週	骨折・脱臼・軟部組織損傷総復習練習問題						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	教科書の熟読						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	柔道整復学Ⅶ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	各損傷における発生機序・症状・合併症・治療法・後遺症などがいえる。			評価方法			
授業概要	「上肢の損傷」の冊子に添い練習問題を交えて確認する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	頭部・顔面の損傷:頭蓋骨骨折 顔面頭蓋骨骨折 顎関節脱臼 p152～166						
第2週	頭部顔面打撲 顎関節症 頸椎骨折 頸椎脱臼 p166～181						
第3週	頸部軟部組織損傷 p182～190						
第4週	胸部損傷:肋骨骨折 胸骨骨折 胸椎骨折 軟部組織損傷 脱臼p191～210						
第5週	腰椎骨折 脱臼 軟部組織損傷p210～219						
第6週	上肢の損傷 鎖骨骨折・脱臼 肩甲骨骨折 p220～232						
第7週	上腕骨近位部骨折 肩関節脱臼 症状・合併症・治療法 p233～245						
第8週	肩関節上腕の軟部組織損傷 上腕骨骨折p245～262						
第9週	肘関節部の損傷 顆上・外顆・内側上顆・橈骨頭・肘頭 p263～278						
第10週	肘関節脱臼・肘関節部軟部組織損傷p279～288						
第11週	前腕部の損傷 前腕骨骨折・ p289～299						
第12週	前腕部軟部組織損傷 神経損傷p299～304						
第13週	手関節部の損傷 橈骨下端部骨折・p304～313						
第14週	手根部の骨折・脱臼p313～324						
第15週	中期末試験・解説						
授業外 学習指示等	教科書の熟読						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	柔道整復学Ⅶ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	各損傷における発生機序・症状・合併症・治療法・後遺症などがいえる。			評価方法			
授業概要	「下肢の損傷」の冊子に添い練習問題を交えて確認する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	手部・指部の損傷 骨折・脱臼 軟部組織損傷p324～p350						
第2週	骨盤の骨折 大腿骨頸部骨折・p351～366						
第3週	股関節脱臼 股関節軟部組織損傷 p367～376						
第4週	大腿部の損傷 大腿骨骨折・軟部組織損傷p377～378						
第5週	膝関節部の損傷 大腿骨遠位部骨折・p378～392						
第6週	下腿骨近位部骨折・膝関節脱臼・膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼p392～401						
第7週	膝関節部の軟部組織損傷p401～410						
第8週	下腿部の損傷 下腿骨幹部骨折・p411～420						
第9週	下腿部軟部組織損傷 足関節部の骨折p420～431						
第10週	足根部の骨折・軟部組織損傷p432～441						
第11週	足・足趾の損傷 骨折・脱臼・軟部組織損傷p442～456						
第12週	骨折総論・脱臼総論・軟部組織損傷総論の復習						
第13週	上肢の損傷の復習						
第14週	下肢の損傷の復習						
第15週	期末試験・解説						
授業外 学習指示等	教科書の熟読						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	柔道整復実技Ⅷ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	柔道整復師として臨床現場で必要とされる、診察、整復、固定が行えるようになることと、他の疾患と鑑別を的確に判断できるようになること。			評価方法			
授業概要	術者、患者モデル、助手役を設定し問診、視診、触診及び徒手検査、整復法、固定法のロールプレイングを行う。			実技試験50%、期末試験50%			
教科書等		使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容				実 施 結 果		
第1週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ1」の知識						
第2週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ2」の知識						
第3週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ3」の知識						
第4週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ4」の知識						
第5週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ5」の知識						
第6週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ6」の知識						
第7週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ7」の知識						
第8週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ8」の知識						
第9週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ9」の知識						
第10週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ10」の知識						
第11週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ11」の知識						
第12週	臨床現場で必要とされる「診察及び検査法、整復法、固定法のまとめ12」の知識						
第13週	実技試験(診察)						
第14週	実技試験(固定)						
第15週	期末試験、まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	競技者の外傷予防技術 高齢者の外傷予防技術	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	2
到達目標	競技者、高齢者特有の外傷に対し、治療・施術を行うだけでなく、予防対策ができるようになること。			評価方法			
授業概要	競技者、高齢者特有の外傷に対し、術者、患者モデルを設定し予防対策のロールプレイングを行う。			実技試験50%、期末試験50%			
教科書等		使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	競技者の外傷予防技術①						
第2週	競技者の外傷予防技術②						
第3週	競技者の外傷予防技術③						
第4週	競技者の外傷予防技術④						
第5週	競技者の外傷予防技術⑤						
第6週	競技者の外傷予防技術⑥						
第7週	競技者の外傷予防技術⑦						
第8週	高齢者の外傷予防技術①						
第9週	高齢者の外傷予防技術②						
第10週	高齢者の外傷予防技術③						
第11週	高齢者の外傷予防技術④						
第12週	高齢者の外傷予防技術⑤						
第13週	高齢者の外傷予防技術⑥						
第14週	実技試験						
第15週	期末試験、まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	柔道整復学総合Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	20
実務経験		担当	小川 勝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	①臨床実地問題におけるキーワードから、疾患を適切に判断することができる。②図および写真から、疾患を適切に判断することができる。			評価方法			
授業概要	柔道整復（①総論、②骨折、③脱臼、④軟部組織損傷）に関する理解を総合的に行うために、これまで学習した内容に関する種々の問題を解くことを通して、専門職としての基礎知識を整理し、理解を深化させることを目的とします。			期末試験100%			
教科書等			使用器材				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理①						
第2週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理②						
第3週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理③						
第4週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理④						
第5週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑤						
第6週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑥						
第7週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑦						
第8週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑧						
第9週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑨						
第10週	期末試験、まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	保健科学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床現場での診断、処置について各論を中心に身体の構造を理解し、記述出来る			評価方法			
授業概要	臨床現場での診断、処置について各論を中心に身体の構造を学習する。			期末試験 90% 小テスト 10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)生理学	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(人体を構成する要素)						
第2週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(血液の役割・免疫機能)						
第3週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(心臓・リンパの流れについて)						
第4週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(呼吸筋が与える影響について)						
第5週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(消化と吸収について)						
第6週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(栄養と代謝)						
第7週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(体温調節について)						
第8週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(腎臓の機能について)						
第9週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(内分泌系の機能 その1)						
第10週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(内分泌系の機能 その2)						
第11週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(骨の構造)						
第12週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(体液について)						
第13週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(神経機能について その1)						
第14週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(神経機能について その2)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	前回学習した範囲の復習テストを毎回行い、自宅学習させる						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	保健科学Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床現場での診断、処置について総論と各論を結びつけながら学習し理解し、記述出来る			評価方法			
授業概要	臨床現場での診断、処置について総論と各論を結びつけながら学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(筋肉の構造について)						
第2週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(感覚器について)						
第3週	臨床における柔道整復術に関わる病理(疾病の分類について)						
第4週	臨床における柔道整復術に関わる病理(代謝障害について)						
第5週	臨床における柔道整復術に関わる病理(循環障害について)						
第6週	臨床における柔道整復術に関わる病理(炎症について)						
第7週	臨床における柔道整復術に関わる病理(免疫異常・アレルギーについて)						
第8週	臨床における柔道整復術に関わる病理(先天性異常について)						
第9週	臨床における柔道整復術に関わる病理(病因について)						
第10週	臨床における柔道整復術に関わる運動(身体活動と力学について)						
第11週	臨床における柔道整復術に関わる運動(運動器の構造と機能について)						
第12週	臨床における柔道整復術に関わる運動(神経の構造と機能について)						
第13週	臨床における柔道整復術に関わる運動(運動感覚について)						
第14週	臨床における柔道整復術に関わる運動(反射と随意運動について)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	前回学習した範囲の復習テストを行い、自宅学習させる						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	柔道整復術適応の臨床的判定	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里・小川 勝	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床所見から判断して、施術に摘する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につけ、また、医用画像も理解できる。			評価方法			
授業概要	前半：外傷に類似した症状を示す疾患の判別や外傷に潜んでいる危険を学習する 後半：超音波画像診断の理解を念頭に、医用画像機器の特性や判断における要点について学習する			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	施術の適応と医療画像の理解	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	柔道整復術の適否を考える・損傷に類似した症状を示す疾患(P1~P21)						
第2週	血流障害を伴う損傷・末梢神経損傷を伴う損傷(P22~P36)						
第3週	脱臼骨折・外出血を伴う出血(P37~P48)						
第4週	病的脱臼および脱臼・意識障害を伴う損傷(P49~P57)						
第5週	脊髄症状のある損傷(P59~P66)						
第6週	呼吸運動障害を伴う損傷(P67~P72)						
第7週	内臓損傷の合併が疑われる損傷・高エネルギー外傷(P73~P81)						
第8週	医用画像の理解 医用画像とは 放射線の概要 X線発生装置の概要(P83~P85)						
第9週	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法 その1(P86~P94)						
第10週	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法 その2(P95~P104)						
第11週	医用画像の理解 画像のデジタル化 X線CTの概要(P105~P113)						
第12週	医用画像の理解 磁気共鳴装置の概要(P113~P121)						
第13週	医用画像の理解 超音波画像装置の概要(P122~P132)						
第14週	医用画像の理解 核医学検査の概要(P132~P137)						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習の仕方の指導を行い、実行させる						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	柔道整復実技V	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	山崎和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	・柔道整復実技と柔道との繋がりを学び理解させる。			評価方法			
授業概要	柔道を通して柔道整復学実技を指導する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	柔道とは何か。歴史及び概要						
第2週	柔道とは何か。歴史及び概要						
第3週	殺法と活法（蘇生法）						
第4週	柔道心得と外傷、損傷						
第5週	人体に加わる力 背負投の場合						
第6週	人体に加わる力 体落の場合						
第7週	人体に加わる力 大内刈の場合						
第8週	人体に加わる力 大腰の場合						
第9週	人体に加わる力 大外刈の場合						
第10週	人体に加わる力 小外刈の場合						
第11週	人体に加わる力 出足払の場合						
第12週	人体に加わる力 釣込腰の場合						
第13週	人体に加わる力 払腰の場合						
第14週	人体に加わる力 送足払の場合						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	柔道の技を覚えるため、反復練習に専念し、力の入り方を学んで欲しい。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	柔道整復実技Ⅴ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	山崎和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	技の名称と掛ける時のタイミング、そこにかかる力の負荷、患部外傷等を学んで欲しい。			評価方法			
授業概要	柔道を通して外傷、損傷(スポーツ損傷)を施術指導。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	人体に加わる力 巴投の場合						
第2週	人体に加わる力 支釣込足の場合						
第3週	人体に加わる力 内股の場合						
第4週	人体に加わる力 打込の際の外傷、損傷						
第5週	人体に加わる力 乱取の際の外傷、損傷						
第6週	坐位時の負担と損傷						
第7週	立位と中腰にて腰部にかかる負担と損傷						
第8週	組み手時の負担と損傷						
第9週	受身の際の身体にかかる負担と損傷						
第10週	受身の際の手にかかる負担と損傷						
第11週	関節を取られた際の負担と損傷						
第12週	頭部の怪我の種類 ①重大事故の特徴						
第13週	頭部の怪我の種類 ②回転加速度損傷						
第14週	頭部の怪我の種類 ③脳震盪症状						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	自宅学習において、運動力学、力のつり合い、頭部外傷時対応反復学習を希望する。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	柔道整復実技V	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	山崎和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	スポーツの種別による発生頻度の高い外傷、損傷及び救急対応の処置を学ぶこと。			評価方法			
授業概要	柔道を通して柔道整復学実技を指導する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	BLS(一時救命処置) 学校内における連絡体制の整備と周知						
第2週	頸部損傷 ①軟部組織損傷 ②頸部骨折 ③頸部脱臼						
第3週	背部、胸部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第4週	上肢損傷(肩、鎖骨部) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第5週	上肢損傷(上腕骨近位) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第6週	上肢損傷(上腕骨遠位) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第7週	肘部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼前腕部損傷						
第8週	前腕部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第9週	手部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第10週	下肢損傷(骨盤部) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第11週	下肢損傷(股部、大腿部) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第12週	膝関節損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第13週	下腿部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第14週	足部 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	柔道整復術は、整復、固定、後療法多岐に亘る為、教科時間の合理的な整理を心掛けてもらいたい。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	外傷保存療法の経過・治癒の判定	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	山崎和弘	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	外傷について理解し、各部位の骨折、脱臼、捻挫及び筋腱等軟部組織の損傷の経過及び治癒の判定を学び、柔道整復師として患者の肉体的な苦痛を取り去り、患部の回復を図り、早期に社会復帰させる事を学び、理解させることを到達目標とする。			評価方法			
授業概要	各部位の外傷、保存療法の経過をプロジェクター、PCを使い説明し、解説を加え個人とグループ実技を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・理論編、実技編	使用器材	プロジェクター、PC				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	頸部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第2週	肩関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第3週	肘関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第4週	手関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第5週	指関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第6週	腰部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第7週	股関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第8週	膝関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第9週	足関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第10週	顎関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第11週	鎖骨部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第12週	上腕部、前腕部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第13週	大腿部、下腿部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第14週	その他部位の外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には教科書の予習を行い、疑問点は質問の準備をすること。 ・復習においては、授業の重要事項のおさらいをして下さい。 						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 リハビリテーションの概念を説明できる。 2 各種疾患における障害の分類を理解できる。 3 各種疾患のリハビリテーションの内容を述べるこおtができる。			評価方法			
授業概要	リハビリテーション医学について、柔道整復との関連において、その概念を解剖、生理、運動学と関連させて学ぶ。リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について概略を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医学、配布資料	使用器材	PC プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	オリエンテーション						
第2週	リハビリテーションの理念（P1～8）						
第3週	リハビリテーションの対象と障害者の実態（P9～13）						
第4週	障害の階層とアプローチ（P19～30）						
第5週	リハビリテーション評価学（P31～54）						
第6週	リハビリテーションの障害学と治療学（P57～105）						
第7週	前半のまとめ（P1～105）						
第8週	リハビリテーション医学の関連職種（P109～116）						
第9週	リハビリテーション治療技術（P119～155）						
第10週	高齢者のリハビリテーション（P157～172）						
第11週	運動器のリハビリテーション（P177～244）						
第12週	リハビリテーションと福祉（P245～248）						
第13週	障害者スポーツ（P251～257）						
第14週	後半のまとめ（P109～257）						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	競技者の生理学的特徴・変化	授業時期	前期	授業時数	15
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	・講義内容(高齢者の生理学的特徴・変化、競技者の生理学的特徴・変化)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(高齢者の生理学的特徴・変化、競技者の生理学的特徴・変化)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	第1章 高齢者の生理学的特徴・変化 A:細胞、組織の加齢現象 B:高齢者の生理的特徴(感覚系の変化まで)						
第2週	B:高齢者の生理的特徴						
第3週	C:運動と加齢						
第4週	第2章 競技者の生理学的特徴・変化 A:運動と身体発達 1.小児期から青年期の発育特性 2.小児期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動						
第5週	3.小児期から青年期の呼吸循環系の機能と運動 4.発育期の運動不足・過運動の影響 5.運動の習熟						
第6週	B:競技者の生理的特徴						
第7週	第1章、第2章のまとめ						
第8週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	高齢者の生理学的特徴・変化	授業時期	前期	授業時数	15
実務経験		担当	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	生理学の中で特に重要でかつ、国家試験においても出題率が高い、血液、循環、内分泌、神経について重点的に復習し、国家試験に備える。今年度より新たに加えられた領域である、高齢者の生理学的特徴・変化、競技者の生理学的特徴・変化についても復習を行い、知識を定着させる。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(高齢者の生理学的特徴・変化、競技者の生理学的特徴・変化)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材					
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	血液の生理学のまとめ、演習						
第2週	循環の生理学のまとめ、演習						
第3週	呼吸の生理学のまとめ、演習						
第4週	内分泌の生理学のまとめ演習						
第5週	神経の生理学のまとめ演習						
第6週	高齢者の生理学的特徴・変化のまとめ、演習						
第7週	競技者の生理学的特徴・変化のまとめ、演習						
第8週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	整形外科	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	医師（整形外科クリニック院長）	担当	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 整形外科を学ぶに当たっての基礎知識を習得する 2 骨及び周囲組織の基礎解剖の確認 3 基本的な治療、検査法を理解する 4 外傷についての基礎知識を身につける			評価方法			
授業概要	整形外科は運動器の医学であり、取り扱う部位は脊柱・骨盤・四肢である。運動療法を行う上で、必要な整形外科の知識と理解の再確認を行う。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	整形外科	使用器材					
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	骨 基本知識 働き、構造、代謝等						
第2週	関節、筋及び靭帯 基礎解剖 役割等						
第3週	整形外科的診察法 基本的診察法 他覚的症状の評価等						
第4週	検査法 ① X線撮影 CT MRI 関節造影等						
第5週	検査法 ② 骨密度 電気生理学的検査 関節鏡検査等						
第6週	整形外科的治療法 ① 保存療法 ギプス 牽引療法等						
第7週	整形外科的治療法 ② 観血的治療法						
第8週	骨折総論 ① 定義 合併症 治療法 等						
第9週	骨折総論 ② 小児骨折の特徴 開放骨折						
第10週	骨折総論 ③ 疲労骨折 病的骨折 偽関節 等						
第11週	関節の損傷 捻挫 脱臼 等						
第12週	スポーツ整形外科総論						
第13週	リハビリ総論						
第14週	まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	基本的な整形外科的単語を理解して授業に挑むこと						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	整形外科学	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	医師（整形外科クリニック院長）	担当	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	① 整形外科的疾患についての理解を深める ② 各疾患における特徴的な症状、部位、好発年齢等を学ぶ ③ 各疾患に対する適切な検査及び診察法を理解する			評価方法			
授業概要	整形外科学は運動器の医学であり、取り扱う部位は脊柱・骨盤・四肢である。運動療法を行う上で、必要な整形外科の知識と理解の再確認を行う。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	整形外科学、標準整形外科学	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	感染性疾患						
第2週	骨腫瘍 ① 悪性腫瘍						
第3週	骨腫瘍 ② 良性腫瘍、軟部腫瘍						
第4週	非感染性骨関節疾患 ① 変形性関節症 関節リウマチ 痛風						
第5週	非感染性骨関節疾患 ② その他の関節炎 骨粗鬆症						
第6週	骨系統疾患						
第7週	骨端症及び四肢循環障害						
第8週	神経筋疾患 ① 上肢、下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害 腕神経叢損傷						
第9週	神経筋疾患 ② 全身性神経筋疾患 脊髄腫瘍 脊髄損傷						
第10週	身体部位別各論 頸椎						
第11週	胸椎及び腰椎疾患						
第12週	肩 肩甲帯 ① 機能解剖						
第13週	肩 肩甲帯 ② 肩関節損傷						
第14週	まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	疾患による症状や各種検査の所見の違いを確実に理解、区別して覚えること						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	整形外科	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(整形外科クリニック院長)	担当	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	① 整形外科的疾患についての理解を深める ② 身体部位の違いによる特徴や症状について理解する ③ 解剖と疾患の関連性について理解を深める			評価方法			
授業概要	臨床に必要な整形外科的知識を習得させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科、標準整形外科学	使用器材					
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	上腕 肘 機能解剖 骨折 骨軟骨障害						
第2週	肘及び前腕部 靭帯損傷 前腕の骨折損傷						
第3週	手関節 機能解剖 骨折 関節疾患						
第4週	手 手指 機能解剖 骨折 変形 他						
第5週	骨盤 股関節 解剖 骨折 関節周囲損傷						
第6週	大腿骨 膝 ① 機能解剖 骨折						
第7週	大腿骨 膝 ② 靭帯損傷 他						
第8週	下腿 機能解剖 骨折 その他の損傷						
第9週	足関節 機能解剖 骨折 靭帯損傷 他						
第10週	足 足趾 骨折 変形 神経障害 他						
第11週	復習 ①						
第12週	復習 ①						
第13週	復習 ①						
第14週	まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	各疾患に重要な解剖知識を確認して授業に挑むこと 基礎知識と臨床所見がつながるように知識を整理すること						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	柔道整復術の適応	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	① 疼痛などの症状に対し、その鑑別疾患を把握する ② 骨折や脱臼等の種々の外傷に伴う合併症を学ぶ ③ 適切な対処法を理解し身につける			評価方法			
授業概要	柔道整復師が関わる可能性のある疾患について、正しい知識を身につけることによりその疾患の持つ危険性や合併症を理解する			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医療の中の柔道整復	使用器材					
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	柔道整復術の適否 内臓疾患を疑う疼痛						
第2週	腰痛をきたす疾患						
第3週	化膿性疾患 関節障害を起こす疾患						
第4週	血流障害、末梢神経損傷を伴う損傷						
第5週	脱臼骨折に伴う障害						
第6週	外出血を伴う損傷 病的骨折及び脱臼						
第7週	意識障害を伴う損傷①						
第8週	意識障害を伴う損傷①						
第9週	脊髄症状のある損傷						
第10週	呼吸運動障害を伴う損傷						
第11週	内臓損傷を疑う損傷						
第12週	高エネルギー外傷						
第13週	まとめ						
第14週	期末試験						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、その日の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	一般臨床医学Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当	吉武 毅人	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	「一般臨床医学Ⅰ」の学びを踏まえて、さらに疾患に関する知識を深め、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を実施できる。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を説明できる。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床内科・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター・OHP)				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	症候学①						
第2週	症候学②						
第3週	症候学③						
第4週	感染症①						
第5週	感染症②						
第6週	感染症③						
第7週	循環器疾患①						
第8週	循環器疾患②						
第9週	循環器疾患③						
第10週	循環器疾患④						
第11週	呼吸器疾患①						
第12週	呼吸器疾患②						
第13週	呼吸器疾患③						
第14週	まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科(昼間部) 3年	科目名	一般臨床医学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当	吉武 毅人	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	「一般臨床医学Ⅰ」の学びを踏まえて、さらに疾患に関する知識を深め、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を実施できる。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を説明できる。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床内科・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター・OHP)				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	消化器疾患①						
第2週	消化器疾患②						
第3週	消化器疾患③						
第4週	消化器疾患④						
第5週	肝胆膵疾患①						
第6週	肝胆膵疾患②						
第7週	血液疾患①						
第8週	血液疾患②						
第9週	免疫疾患						
第10週	膠原病						
第11週	内分泌疾患①						
第12週	内分泌疾患②						
第13週	代謝疾患						
第14週	まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部） 3年	科目名	外科学概論	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	医師（病院実務研修有り）	担当	小山 進	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	外科で扱う疾患、手術の概要と術前・術後の管理に関する基本的知識を習得する。			評価方法			
授業概要	外科学概論では、柔道整復師に必要とされる臨床医学的基礎知識のうち、特に外科学一般の基礎となる総論的な知識の周知徹底を図る。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	外科学概論(柔整)	使用器材	講義用プリント、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	「ショック・心肺蘇生」 バイタルサインの見方を基礎として急性期の患者管理を学ぶ						
第2週	「意識障害」 意識障害を来たす疾患と急性期の処置に関して学ぶ						
第3週	「脳卒中」 脳卒中の分類、病態、症状と急性期の治療に関して学ぶ						
第4週	「胸部外傷(1)」 胸部の解剖と外傷による病態に関して学ぶ						
第5週	「胸部外傷(2)」 胸部外傷による病態に対する急性期の処置に関して学ぶ						
第6週	「頭部外傷(1)」 頭部の解剖と外傷による病態に関して学ぶ						
第7週	「頭部外傷(2)」 頭部外傷による病態に対する急性期の処置に関して学ぶ						
第8週	「出血と止血」 出血の病態と止血法に関して学ぶ						
第9週	「急性腹症」 急性腹症を来たす疾患と急性期の処置に関して学ぶ						
第10週	「輸血と輸液」 血液の生理、血液型の検査、輸血・輸液法に関して学ぶ						
第11週	「消毒と滅菌」 滅菌法、消毒薬の分類とその使用に関して学ぶ						
第12週	「手術」 術式や手術器具の種類とその使用法に関して学ぶ						
第13週	「麻酔」 麻酔薬の種類と麻酔法に関して学ぶ						
第14週	「外科的感染症」 外科領域で問題となる病原微生物とその病態に関して学ぶ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	指定された教科書を通読し予習をし、その日の授業後に講義用プリントを読んで復習する。						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	臨床実習	授業時期	前期	授業時数	45
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験有り	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。			評価方法			
授業概要	臨床実習にて医の倫理、態度など柔道整復師としてのあり方や急性症状に対する施術の基礎を身につける。社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違いや柔道整復師法、健康保険取り扱いに関する関連規定を学ぶ。また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。			実習時評価25% レポート25% 実習課題(カルテ・デイリーノート・症例報告)50%			
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
①第1週	①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理						
①第2週							
①第3週							
①第4週							
①第5週							
①第6週							
授業外学習指示等	基本的な知識や技術は、自分で繰り返し反復練習すること。						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	臨床実習	授業時期	中期	授業時数	90
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験有り	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	2
到達目標	柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。			評価方法			
授業概要	臨床実習にて医の倫理、態度など柔道整復師としてのあり方や急性症状に対する施術の基礎を身につける。社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違いや柔道整復師法、健康保険取り扱いに関する関連規定を学ぶ。また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。			実習時評価25% レポート25% 実習課題(カルテ・デイリーノート・症例報告)50%			
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
④第1週	①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理						
④第2週							
④第3週							
④第4週							
④第5週							
④第6週							
授業外学習指示等	基本的な知識や技術は、自分で繰り返し反復練習すること。						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	臨床実習	授業時期	後期	授業時数	45
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験有り	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。			評価方法			
授業概要	臨床実習にて医の倫理、態度など柔道整復師としてのあり方や急性症状に対する施術の基礎を身につける。社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違いや柔道整復師法、健康保険取り扱いに関する関連規定を学ぶ。また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。			実習時評価25% レポート25% 実習課題(カルテ・デイリーノート・症例報告)50%			
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
②第1週	<ul style="list-style-type: none"> ①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理 						
②第2週							
②第3週							
②第4週							
②第5週							
②第6週							
③第1週	<ul style="list-style-type: none"> ①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理 						
③第2週							
③第3週							
③第4週							
③第5週							
③第6週							
授業外学習指示等	基本的な知識や技術は、自分で繰り返し反復練習すること。						